

東北各県医師会学校保健担当理事意見交換会 議事概要

1. 日 時：令和4年10月1日（土）11時30分～12時30分
2. 会 場：山形国際ホテル 5階「月山」
3. 議 題：いじめ問題
4. 議事の概要

【青森県医師会】

- 県教育庁が県いじめ問題対策連絡協議会を年に1～2回開催しており、委員として県医師会が参加。
- 県がいじめ防止のリーフレットを作成する際に、インターネットを通じてのいじめが増加しているが、ネット利用の環境整備のキーパーソンは保護者であることから、保護者への啓発としてフィルタリングの必要性が協調されるリーフレットになるように依頼をした。

【岩手県医師会】

- 県いじめ問題対策連絡協議会での各団体から出た意見をまとめた、「いじめ問題対応マップ」を作成している。
- 通常の診療を通して、いじめや自殺の兆候がある事例を発見した場合には、学校、行政の関係団体との連携を取り、早期発見に協力する。
- 各郡市地区医師会や診療部会と協力しながら、医師会として研修会等の各種取組みに協力する。
- 事案が発生した場合は、岩手県精神科医会等と連携して、いじめ問題対策委員会や第3者調査委員会などに委員として医師を迅速に推薦する。

【宮城県医師会】

- 県いじめ防止対策調査委員会の委員として医師会が参加。
- 宮城県では、小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめ認知件数は、前年度より減少しているものの、児童生徒1,000人当たりの認知件数は、全国と比べて多い。
- 宮城県教育委員会では、心のケア・いじめ・不登校等対策支援チームを設置し、全ての児童生徒が「行きたくなる学校づくり」を目指している。

【秋田県医師会】

- 各市町村の教育委員会がどのような取組みをしているのかアンケート調査を実施した。
- 配置しているスクールカウンセラーに相談している。
- 4割程度の市町村が、いじめへの対応マニュアル・フローチャートを作成している。

【福島県医師会】

- 教職員の抱え込みを防ぐために「学校いじめ防止基本方針」に沿って、組織的に取り組んでいる。
- いじめ問題に対する各郡市地区医師会への調査結果では、いじめ問題について相談されたことがあったかという問いに対し、すべての医師会が「ない」との回答であった。
- いじめた子に対してもスポットを当てて、相談に乗ってあげた方が良いのではないか。

【山形県医師会】

- 山形県では、未然防止、早期発見・早期対応、適切な対応の3つの重点項目を掲げている。
- 県独自のアンケート調査を作成しており、年2回（6月・11月）、いじめ発見調査アンケートを実施するとともに面談も行っている。
- SNS等によるいじめのような発見しにくいものには、PTAを巻き込んだいじめ防止策をとっている。

【その他の意見】

- 未然の防止や早期発見・早期対応については、最初に対応するのは、学校になると思うので、医師として関わるのは難しいところである。
- 学校の先生が多忙で、生徒の話を聞く時間がないのが現状である。
- 教師のメンタルのフォローについて、医師会としてもっと積極的に関わっていくべきである。